

「旭川市公園施設長寿命化計画」策定に向けた 今後の事業方針について

令和2年度 緑の審議会資料（第2回）

2021年（令和3年）2月3日(水)

公園の現状把握

- ① 老朽化が進む公園施設
- ② アンケート調査の実施

次期計画の整備方針

- ③ 行政側からの情報の発信
- ④ 遊具の更新を行う公園の選定
- ⑤ 地域の意向を確認
- ⑥ 遊具の更新方法
(現計画～次期計画)

今後の【身近な公園のあり方】

- ⑦ 「身近な公園」の満足度向上
- ⑧ 公園の将来像

公園の現状把握

① 老朽化が進む公園施設(1)

○現在の旭川市の公園が置かれている現状

- 社会構造の変化

→人口減少や、少子化により公園利用者が減少している。

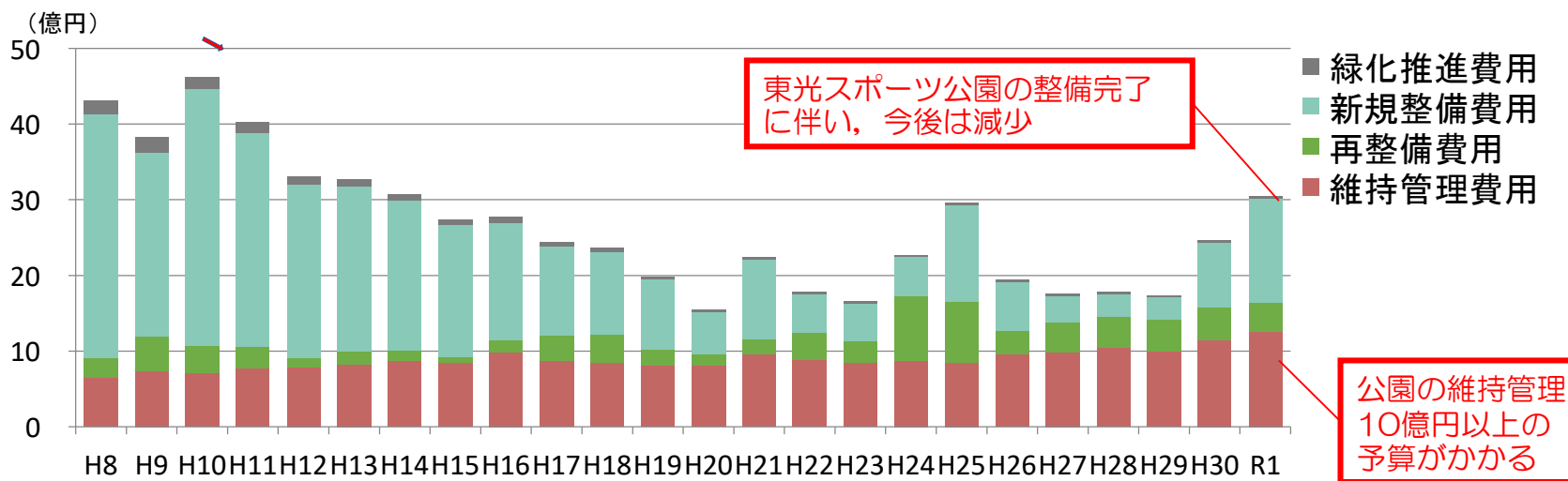
- 限られた予算

→公園予算は年々減少傾向

→R2はH29予算と同程度となる見込み

→近年の遊具更新の実績では、年間50基程度（全体1850基）

〈市の公園予算の推移〉



① 老朽化が進む公園施設(2)

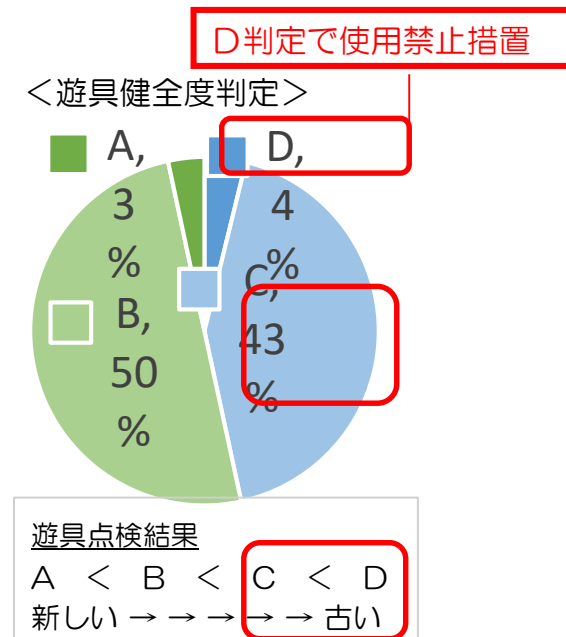
○現在の旭川市の公園が置かれている現状

・老朽化する施設

→市内の都市公園にある遊具1850基のうち、
CとD判定が約半数

→部品交換や修繕をしながら、使用期間の延命
を行っている状態であり、古い施設ほど修繕
頻度が上がり、維持管理に費用がかかっている。

→遊具の使用見込み期間は、木製複合遊具で14年、鋼製複合遊具で
27年と短く、使用環境や利用状況で更に短くなる場合もある。
更新を行っても、10~20年の間にすぐ更新時期を迎える。



☆都市公園内の遊具は約半数が劣化している。
→予算規模を超える遊具の更新できない。

① 老朽化が進む公園施設(3)

〇市としての目標

- 老朽化した使用禁止施設の解消（古い遊具の解消）
 - 公園利用者の怪我や事故などのリスク軽減。
 - 公園のマイナスイメージを放置しない。
- 公園施設のストック適正化（管理施設数の削減）
 - 全道にも本市と同様の悩みを抱えている自治体が複数ある。
全国的に施設の新規整備を主体とする事業から、ストック再編などのスリム化する事業にシフトしてきており、国交省による行政的な制度も拡充してきている。
 - 現状を改善し、より良い公園環境を整備していくには、適正に管理できる施設数となるようスリム化を図っていき、維持管理コストの削減（選択と集中）し、目が行き届き、スリム化され、適切に管理された綺麗な公園を目指す。

☆目標の達成には、地域住民の理解が必要
身近な公園の認識を確認するためアンケート調査を実施

② アンケート調査の実施(1)

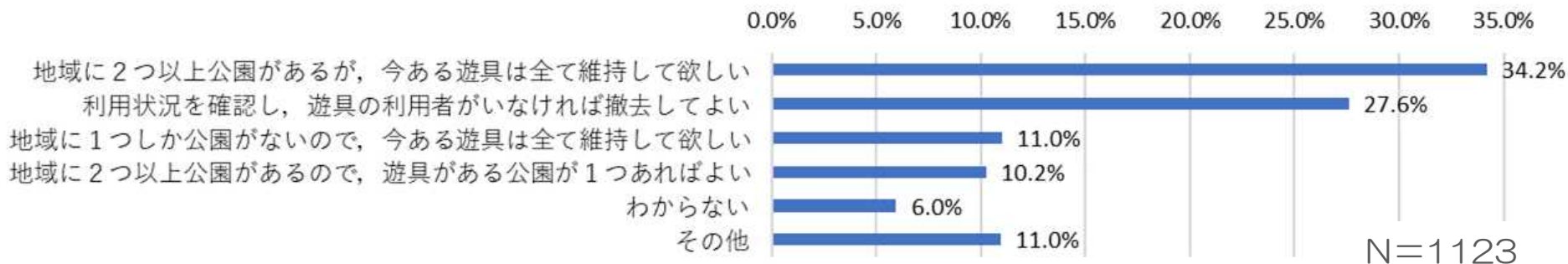
○次期長寿命化計画に関連するアンケート調査結果の要点

- 身近な公園は子どもの遊び場としての利用がメイン。
- 既存施設の存続を求める意見が多い。
- 身近な公園の満足度は、「家から近くにある」ことにより比較的高い傾向にある。

○次期長寿命化計画に関連するアンケート調査結果 内容

【市民アンケート：公園維持管理の考え方 [単数回答]】

- 「地域に2つ以上公園があるが、今ある遊具は全て維持して欲しい」という意見が約34%で最も多く、次いで「利用状況を確認し、遊具の利用者が居なければ撤去して良い」が約28%となっている。
- 同様に、小学校や幼稚園・保育園、町内会アンケートでも、今ある施設の存続を求める声が1番多い結果となっている。



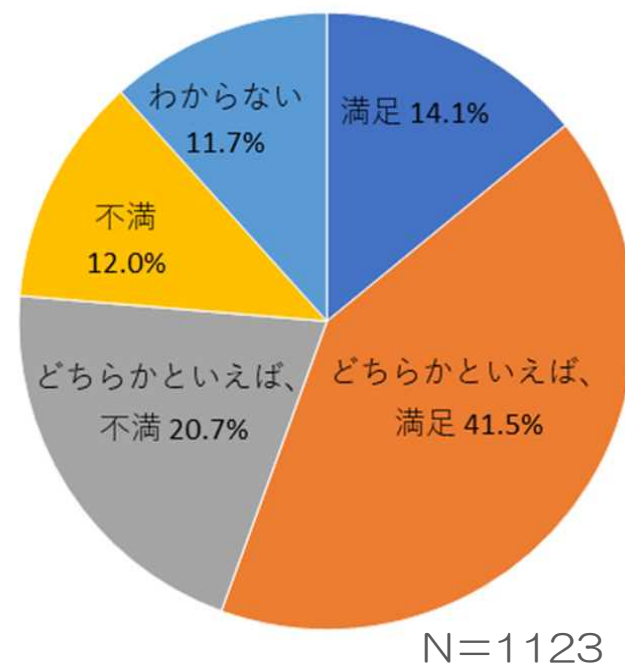
② アンケート調査の実施(2)

【市民アンケート：身近な公園に対する満足度 [単数回答]】

【市民アンケート：満足している点 [複数回答可]】

- 満足度は、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせると、約56%であった。
- 満足していると回答した人の中で、満足している点として最も多く挙げられたのは、「家から近くにあるところ」の約60%であった。
- このことから、満足度を上げている大きな理由に家からの距離が関係していることがわかる。

＜身近な公園に対する満足度＞



＜満足している点（上位3位まで抜粋）＞



② アンケート調査の実施(3)

【市民アンケート：不満を感じる点〔複数回答可〕】

- 身近な公園に不満を感じると回答した合計約33%のなかで、不満を感じる点として挙げられたのは、「施設が古い、樹木や花などの手入れが悪い」が約61%で最も多く、次いで「見通しが悪い、照明が少なく夜暗い」だった。
- このことから、古い・汚い・暗いなど、施設の古さや維持管理について指摘する声が多く見受けられた。

<満足している点（上位3位まで抜粋）>



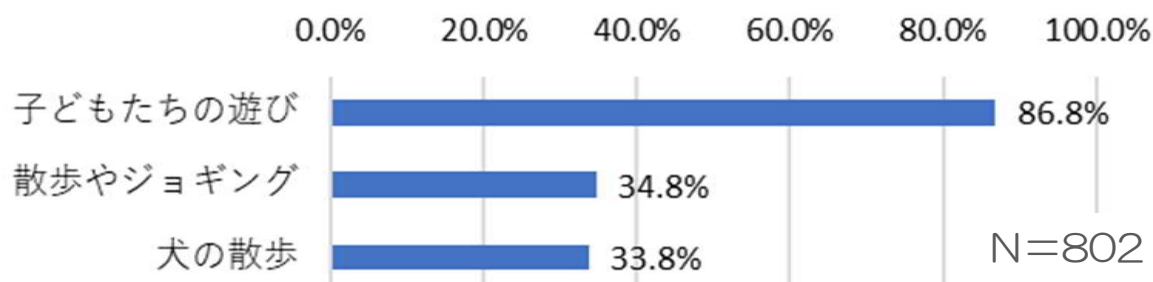
② アンケート調査の実施(4)

【市民アンケート：身近な公園の利用のされ方 [単数回答]】

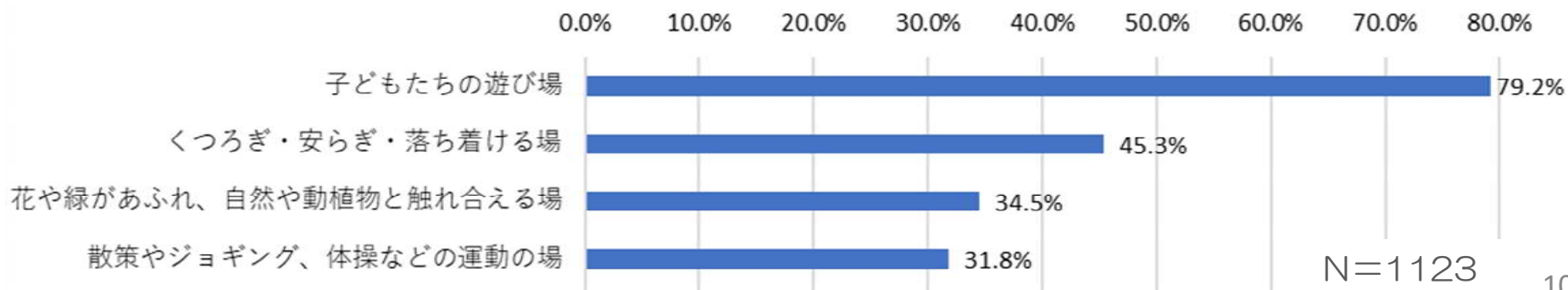
【市民アンケート：公園に求める機能や役割】

- 身近な公園が利用されていると回答した合計約71%のうち、利用のされ方として最も多く挙げられたのは「子どもたちの遊び」で約87%。
- 公園に求める機能や役割で最も多く挙げられたのは「子どもたちの遊び場」で、約80%だった。

<身近な公園の利用のされ方（上位3位まで抜粋）>

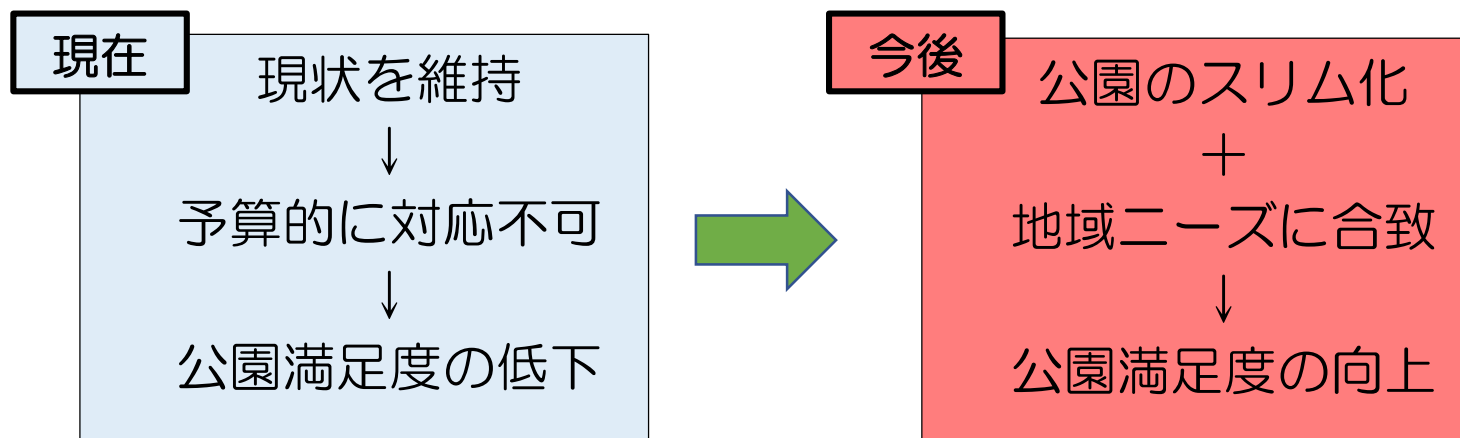


<公園に求める機能や役割（上位4位まで抜粋）>



② アンケート調査の実施(5)

○アンケート調査結果を通して見えてきた課題



- 今までは、公園数や施設数など**数的優位**によって満足度を得ていた。
- 今後は、**質の向上**により満足度の向上を目指していく。
→新たな方針にシフトしていくためには、地域住民の理解が必要

☆今後の公園行政には、地域住民の理解が必要

次期計画の整備方針

次期計画の整備方針

③ 行政側からの情報の発信

○現状

- 市と市民の公園に対する認識の不一致
 - 同じ目標に向かって、考えをすりあわせていく必要がある。
 - 市の方針が不明確だといった意見もある。(アンケートより)
 - 市の考えをしっかりと伝え、現状を理解してもらえるように。

○具体的対策

- 市民の理解を得られるような行政側からの情報発信
 - 市の公園予算や公園の現状への理解
 - 新しくなった公園や施設のPR。

〈 情報発信の方法（具体例） 〉

- デジタル：市HP，SNSを活用した公園の情報発信など
- アナログ：広報誌（あさひばし）など
 - 公園を身近に感じて貰い，興味を持ってもらう。
 - 今後の事業を行う際に，地域の公園の計画方針の決定や，ごみ拾い等の活動に積極的に関わっていただくきっかけになれば。

④ 遊具の更新を行う公園の選定(1)

- アンケート結果を踏まえた上で、ストック再編の方向性について
 - ・身近な公園に満足している理由や今後の維持管理の考えからわかること
 - 「家から近くにあること」が満足する大きな理由であることや既存施設の存続を求める市民が多数いることを考慮し、複数公園間でのストック再編（集約化・機能の再編）をメインに事業計画を組むことは現段階で非現実的。
 - ・市の情報発信や全国的な公園行政の動向等への市民の理解を
 - 市や全国的な公園の現状を、市民が理解できるようになってから、ストック再編事業を本格的に推進。
 - ・次期計画における公園の整備方針
 - 1公園内でのスリム化など、ストック再編の一步手前でやめておく。
 - 例えば、地域ニーズを踏まえた上で、個別遊具から複合遊具に更新し、まずは施設数を減らしていくなど段階的に事業を進めていき、将来的にストック再編に結びつけられるようにする。

☆次期計画では、1公園内でのスリム化を目指す。

次期計画の整備方針

④ 遊具の更新を行う公園の選定(2)

○限られた予算をどう配分するか

- 環境や使用条件はあるが、建設年次が近い公園施設が、基本的に同時期に老朽化する。
- 現計画のように老朽化のみを物差しにして計画をすると、例えば永山の1地区のみに数年予算が集中といった地域間での不公平が発生する。
- 子どもが遊具で遊ぶ期間（年齢）は、おおよそ幼稚園～小学生程度までと限られているため、綺麗な遊具で遊ぶ機会を均等に。
- 地域間による不公平を緩和する必要があるため、それぞれの地区ごとに予算を配分し、その地区内での公園の優先順位を決める。

☆公園整備の単位を地区ごととし、予算の配分を行う。

次期計画の整備方針

⑤ 地域の意向を確認(1)

- 市民に理解を求めるばかりではなく、公園の満足度を上げる努力を
 - 「公園の現状」「要望」は地域により異なる
 - 地域の生の声を聞かないと、何を公園に求めているかわからない。
 - 方向性を提示し、地域との協議から導き出すニーズに合った公園
 - 市の基本的な方針を示した上で、地域と話し合い、各地域ごとにニーズに合った公園にしていく必要性がある。
 - 町内会、幼稚園や保育園、小学校などへのニーズ調査の実施。
 - アンケート調査結果の積極的な活用と分析
 - 利用頻度の高い公園、子どもに人気の遊具、町内会の利用状況などから、何が公園に必要なかを考える。

次期計画の整備方針

⑤ 地域の意向を確認(2)

○市民に理解を求めるばかりではなく、公園の満足度を上げる努力を

- アンケート調査での貴重な意見を参考にした対応
(第1回審議会で紹介)

- 遊具が多少少なくても、簡易な球技ができて走り回れるなど、子どもがのびのびと遊べる公園に。
- 選択と集中が必要。必要な箇所には投資すべき。
- 施設整備の際、学校に公園に関する要望を聞いてくれると、学校教育において効果的に活用することができる。など。

〈例〉

鉄棒＋砂場＋ブランコ（狭い公園なのに古い遊具過多。）

→複合遊具＋多目的広場（遊具で遊べ、広場で走り回れる。）

☆施設の数（ハード重視）から、施設の質（ソフト重視）へ

次期計画の整備方針

⑥ 遊具の更新方法 ～現計画～

○現計画は、市内全ての遊具を更新対象としている

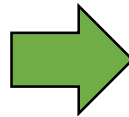
→劣化した遊具から優先的に更新する計画となっており、計画期間10年を通して、進捗率2割程度。

→基本的に、今ある遊具と同じものを同じ位置に更新。

〈例〉

すべり台→すべり台 / ブランコ→ブランコ

before



after



☆現在の公園整備は、単純更新（点的な整備）

次期計画の整備方針

⑥ 遊具の更新方法 ～次期計画～

○国の交付金を活用した整備の限界

→2ha以下の公園は、遊具のみ交付対象

○公園の維持管理は委託

→指定管理者（公園緑地協会や公園管理センターなど）に委託をしている。

→指定管理者は、施設の劣化状況をみながら独自に補修を行っている。

○市の「公園整備」と指定管理者の「維持管理」の組み合わせによる効果

→これらを組み合わせることで、**点的ではなく面的な公園整備が可能に。**

〈例〉

鉄棒＋砂場＋ブランコ

→（公園整備）複合遊具＋多目的広場＋（配置の再検討）

×

（維持管理）ベンチの補修＋公園照明のLED化

☆次期計画の公園整備は、複合的更新（面的な整備）

今後の【身近な公園】のあり方

今後の【身近な公園】のあり方

⑦ 「身近な公園」の満足度向上

○【次期計画の整備方針】を踏まえ、公園整備を行うことにより、次期長寿命化計画では、「公園の満足度を上げる」ことを目的とする。

- 身近な公園へ親しみを感じてもらい、身近な公園は地域のための公園であることを理解してもらう。
- 市民アンケート調査において、「身近な公園を利用しない理由」として最も多かった「身近な公園を利用する目的がない」と回答した人に対し、公園への興味を持ってもらう。
→新たな公園利用者の増加につなげる。
- 公園を利用した町内イベントなどの、地域活動の活性化を図る。

○第2次旭川市緑の基本計画の数値目標である「公園や遊び場」の評価の向上へ

〈参考〉公園や遊び場の評価（H27: 32.4%→ H47: 50%）

☆公園の満足度向上を意識した事業推進

今後の【身近な公園】のあり方

⑧ 公園の将来像(1)

○今後の方向性

- ・次期計画では、ストック再編の一手手前まで（1公園内での集約・再編）としたが、将来的には、複数公園での集約や機能の再編を目的としたストック再編事業を主体的に行い、スリム化され適切に管理された公園を目指していく。

※ストック再編の地域合意が得られた場合は、試験的に事業を進める。
→次ページに掲載している東光千代田町内会の例を参照。

☆将来的には、ストック再編事業を主体的に行っていく。

⑧ 公園の将来像(2)

〈例：東光千代田二町内会〉

世帯数：400（加入300）／公園数：4（街区公園2、児童遊園2）



第2しらゆり児童遊園

H2開設・0.03ha・ニース 無
（砂/ブラ/滑/鉄棒/外柵/
雪押有/更新無）

東光はまなす公園（街）

S56開設・0.10ha・ニース 無
（砂C/ブラB/滑C/鉄棒B/
トイレ和/水飲/照明灯/生垣/
愛護有/雪押有/更新無）

あさぎり児童遊園

S57開設・0.03ha・ニース 無
（遊具無/外柵/雪押有/更新無）

東光8条第1公園（街）

S49開設・0.14ha・ニース 無
（砂B/ブラB/滑C/雲梯C
トイレ和/水飲/照明灯/外柵
愛護有/雪押有/更新無）

- 東豊中央地区年少率11%
（市内平均並）
- 近くに小学校と保育園
- アンケート調査回答
→遊具は維持の意向

現状

- 40年以上経過した街区公園が並び、設置施設ほぼ同じ。
- スtock再編に着手しやすい状況。

方向性

- 理想：施設を集約し、予防保全施設とコスト縮減を図りたい。
- 地域の意向：アンケートから施設数の維持の意向あり。

課題

- 地域との合意形成を図るには時間を要し、結果次第では事業が停滞する恐れもある。
- 個別遊具から複合遊具に更新し、まずは施設数を減らしていくなど、段階的に進めることも考えられる。
- 「公園の満足度を上げる」ため、特色ある公園の将来計画を提案し、地域ニーズに即した整備が求められる。

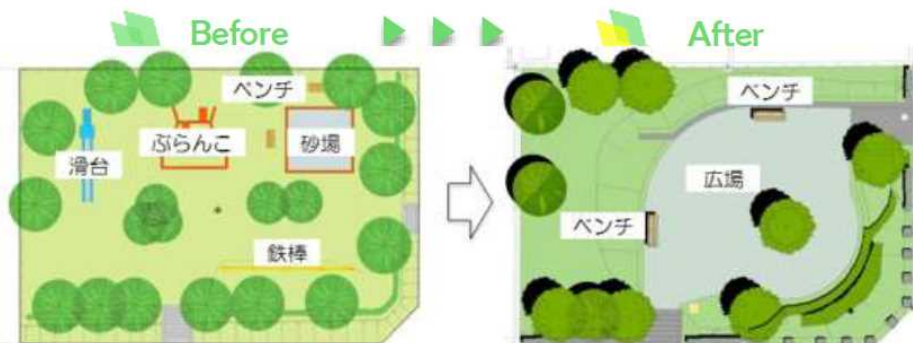
⑧ 公園の将来像(3)

機能再編

機能分担で公園の多機能化と施設量の低減を両立！

藻岩ころころ公園

- 札幌市では、平成20年度から機能分担の考えによる公園再整備を実施し、平成26年度までに40の狭小公園(1,000㎡未満)において再整備を実施。
- 同一誘致圏内にある複数の公園において機能を分担することにより、様々なニーズに対応するとともに、施設総量の削減による維持管理コスト縮減を可能に。



【狭小公園の再整備事例(藻岩ころころ公園)】

【効果】機能重複の解消

- ・かつては面積の大小に関わらず、遊戯施設が主体の公園が多数であったが、面積の小さい公園が休憩施設、広場主体などとなることで、機能重複が解消され、新たなニーズに応えることが可能となった。



【地域の中心となる公園の再整備(北の沢山の子公園 遊具広場)】

- 同一誘致圏内にある2つの街区公園において、機能分担による全面再整備を実施。
- 北の沢山の子公園(4,398㎡)は、地域の中心的な公園と捉え、遊具などレクリエーション機能主体の公園に再整備。
- 藻岩ころころ公園(338㎡)は、遊具などを撤去し、休憩施設に機能を絞って再整備(機能特化)。



【効果】管理費の縮減

- ・機能重複の解消により、施設量が低減されたため、維持管理コストの削減につながった。
- ・40公園で再整備を実施した結果、遊具数が整備前の134基から65基へと半減し、単年度当たりの維持管理コストも約600万円から約290万円に半減した。

ポイント

【機能特化対象公園】対象公園の誘致圏(半径250m)が、他公園の誘致圏でほぼ全て覆われることが条件。
 【市民意見の反映】計画段階で説明会等を開催。地元住民の意見を反映するほか、機能分担の考えについての承をいただいたうえで実施している。このため、狭小公園であっても地域ニーズが高ければ、遊具を残すケースもある。